



担い手通信



JA bank Mie

Topic

今月の話題

大豆10%以上「とうふ」

豆腐業界初の定義

「品質」明確に安売りを防止

19年3月
認証めざす

豆 腐の定義作りに業界が乗り出しました。これまで定義が曖昧だったため、大豆の使用割合が多いこだわりの製品と、安値になりがちな汎用(はんよう)品とが、同じくくりで販売されてきました。品質に応じた製品表示で不当廉売を防ぎ、製造業者や原材料の供給元となる農家が適正な利益を得られるようになります。

主原料とするたまたご豆腐などは除外します。

豆腐業界の定義作りは、製品表示に関する規約策定

名称	大豆固形分	成分、加工
とうふ	10%以上	大豆、凝固剤、水だけを使用
調製とうふ	8%以上	副原料を用い、味、食感などを調製
加工とうふ	6%以上	調製とうふよりも加工度の高いもの

※豆腐公正競争規約設定委員会の資料を基に作成

の中で進めています。主導するのは、豆腐事業者の全国団体でつくる豆腐公正競争規約設定委員会。「豆腐の定義や表示方法が不明確だったことが、不当廉売の要因だった」と対応に動きました。

定義では、豆腐に含まれる大豆の割合「大豆固形分」を基準に、10%以上を「とうふ」、8%以上を「調製とうふ」、6%以上を「加工とうふ」と大まかに分類します。6%に満たないものや、卵を

に詳細な表示を義務付ける方針です。

豆腐を固形分の割合で定義し、表示するのは初めての試みです。乳脂肪分を基準に分類するアイスクリームなどを参考にしたといいます。「大豆や凝固剤をどのくらい使っているかが分かり、仕入れ側や消費者が製品を選べるようになる。汎用品や高級品のすみ分けも進む」と委員会に参加する豆腐メーカー・さとの雪食品の村尾誠常務は強

調します。

豆腐公正競争規約設定委員会では、来年初めの消費者庁への認定申請に向け、事業者の説明を進めています。公正取引委員会での審査などを経て、2019年3月末の認定・告示を目指します。

数字でみえる
三重県の農と食

水稲10ア-当たりの収量

東海農政局「東海3県の水稲(平成28年産)」によると、平成28年産の三重県の水稲10ア-当たりの収量は522*。平成27年産に比べ32*。増加し過去最高となっています。木曾岬町・玉城町・伊勢市の3市町が同550*。を超え、東海3県の市町村の中で上位を独占しています。

522キロ

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

耕種的防除でナタネ菌核病を軽減 たん水処理中耕など組み合わせる効果

三重県農業研究所

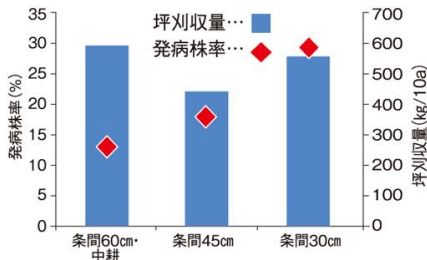
は、耕種的防除を活用したナタネ菌核病の軽減技術を開発しました。作付け前の夏季たん水処理、中耕などを組み合わせることで安定多収が得られるとしています。

ナタネ菌核病の発生が目立ってきており、安定生産技術の確立が求められています。試験を行った圃場では、①ナタネ作付け前には、②たん水処理③条間を60cm程度とし中耕を60cm程度④「キザキノナタネ」⑤「ななはるか」⑥「ななしぎぶ」などの菌核病に抵抗性のある品種の活用⑦周囲溝の設置、畝

立て播種(はしゅ)などの排水対策の徹底と、四つの技術を組み合わせることで、10ヶ当たり350kg以上の坪刈収量が得られ、発病株率も低くなりました。栽培に当たって、同研究所は「長期の連作はナタネ菌核病以外の病害虫や雑草増加の要因にもなるので、水稲との輪作を行うことが望ましい」としています。

播種様式と菌核病の発病程度および収量

夏季たん水処理
前作ナタネ収穫後1カ月程度
播種:10月12日、
小明渠作溝同時畝立播種
中耕処理:12月20日
品種:キザキノナタネ



お問い合わせ先 三重県農業研究所 伊賀農業研究室 ☎0595-37-0211

JAみえきた

麦秋 品質上々、収穫急ぐ

JAみえきた管内では、小麦「あやひかり」の本格的な収穫を迎えている。播種(はしゅ)期に降雨が多く心配されたが排水対策に努め、4月から少雨だったため順調に成熟した。管内の作付面積は1300haで、約3000トンの収量を予定する。「あやひかり」は三重県が全国生産の7割を占め、JA管内でそのうち35%を生産。2016年度は栽培面積、集荷量が全国1位となった。(2017/6/13 ワイド2東海)

JA津安芸

簡易移植器貸し出し 白ネギ振興

JA津安芸は白ネギ生産者を対象にした簡易移植器の無料貸し出しに取り組んでいる。機械の共同化と作業の合理化を進めることで、安定した需要と所得が見込めて複合経営の品目として有望な白ネギの生産を強化。地域での生産振興と産地化を目指す。白ネギは手植えだと手間が掛かり、機械植えだとコストが掛かることから、複合経営の作物として広げるにはその問題を解決する必要がある。簡易移植器を使えば、低コストで作業効率を向上させられることから、JAが貸し出し用に導入した。(2017/5/31 ワイド2東海)

JA三重中央

郷土資料館で蚕の飼育開始

津市のJA三重中央郷土資料館で、6月上旬から蚕の飼育が始まった。資料館はJAが運営し、かつて地域で盛んだった養蚕と製糸の展示の他、昔の農業や生活用具などを展示する。蚕の飼育は、JA職員と養蚕関係のOBを含めた「一志町歴史語り部の会」のボランティアが協力して取り組む。飼育する蚕は「黒縞(くろしま)」「小石丸」「黄白」の3種類。中でも「小石丸」は皇室でも飼育している純国産種で、純白で他よりも小ぶりの繭が特徴だ。(2017/6/13 ワイド1東海)

(2017/6/13 ワイド1東海)

農業資金 さらに使いやすく がなりました!

三重県農業信用基金協会では本年5月から農業資金における保証料率の引き下げと無担保枠の拡大を行い、農業資金のお借り入れがさらにご利用いただきやすくなりました。詳しくは、最寄りのJA窓口にお尋ねください。

保証料率の引き下げ

各農業資金の保証料率を0.03%※引き下げました。
※ただし、農業経営資金は保証料率の特別対応を実施中ですので変更がありません。その他一部例外があります。

経営状況が優良な個人・法人の方はさらに0.1%引き下げ

優ランクとして保証料が優遇される基準点数を引き下げ、これまでより多くの方が対象になります。

無担保枠の拡大

無担保無保証人貸付限度額の拡大により、これまでの2倍になりました。

三重県農業信用基金協会

《金利情報》平成29年6月19日現在

農業近代化資金

実質金利
年0%~0.30%
(固定金利)

※認定農業者の方は、市町や(公財)農林水産長期金融協会の利子補給等により、お得にお借入ができます。

スーパーS資金

年1.5%
(変動金利)